

# 第5次 西神納地域まちづくり計画



令和6年4月  
西神納地域まちづくり協議会

## はじめに

### 1. 計画の趣旨

本計画は、地域住民のつながりをさらに深め、支え合いながら、安心して暮らし続けられる地域を目指して策定するものです。

### 2. 計画の期間

令和6年度から令和8年度までの3年間とします。

## 西神納地域の現状と課題

### 1. 現状

西神納地域は、旧神林村のほぼ中心部に位置しており、お幕場の松林や広大な水田が広がる自然豊かな地域に11集落が点在しています。

地域内には、日本海東北自動車道の神林岩船港インターをはじめ、国道7号や国道345号など主要道路が通っており、平成26年に開業百周年を迎えた JR 岩船町駅もあることから交通の便が良い地域です。また、地域内には村上市神林支所や神納小学校、パルパーク神林など公共施設の多い地域でもあります。

地域の人口は、住民基本台帳（施設入居者を除く）で比較すると平成24年1月1日（まちづくり協議会の設立年）の1,572人から令和6年1月1日の1,366人と206人（減少率13.1%）減少しています。

特に、年少人口（15歳未満）の減少が進んでおり全体の占める割合が10.76%となっています。また、その一方で高齢者人口（65歳以上）は年々増加し、36.60%となっており少子高齢社会が著しく進んでいます。



### 2. 課題

中学生以上全員を対象とした住民アンケート調査を、平成29年度に実施後2回目となる調査を令和5年度に実施し、世代別・男女別に整理と比較を行いました。

アンケート調査の分析結果によると、地域の愛着度については、6割以上が「地域に愛着があり」、10代は前回調査よりも上昇している一方、30代は「愛着なし」の割合が増加しています。また、「自分の子どもにも住み続けてほしい」は全体で4割以上いるものの、30代と50代女性は「住み続けてほしいとは思わない」の方が多く、前回調査に比べ、60代以下の年代、特に20代、30代は特に、子どもへの定住希望が低下しています。愛着があっても定住意向が低いのは、将来への希望・安心感が足りていないことが要因であると考えられます。

また、少子高齢社会の急速な進展に伴い、日常生活での不安や困りごととして、年代によって違うものの健康面や冬期の除雪、災害への備えや避難など防災・安全に関することが上位に占められており、地域の暮らし・営みを持続可能なものとするための取り組みと将来への備えが、強く求められています。特に西神納地域においては、神林地区の中でも小規模集

落が多い地域であり、小さな集落では既に伝統文化・芸能の継承や集落内の美化活動等への参加者が減少している等、集落としての機能を維持することが難しくなりつつあります。更に近年の就業形態の変化、生活様式の変化によって、集落内での人間関係の希薄化も進行しています。

以上のことから、地域内での助け合い・支えあいの仕組みづくりをより進めていくだけでなく、地域の外から地域を支える人材として注目されている関係人口を呼び込むことで、住民同士のつながりをもう一度生み出すことが必要となっています。

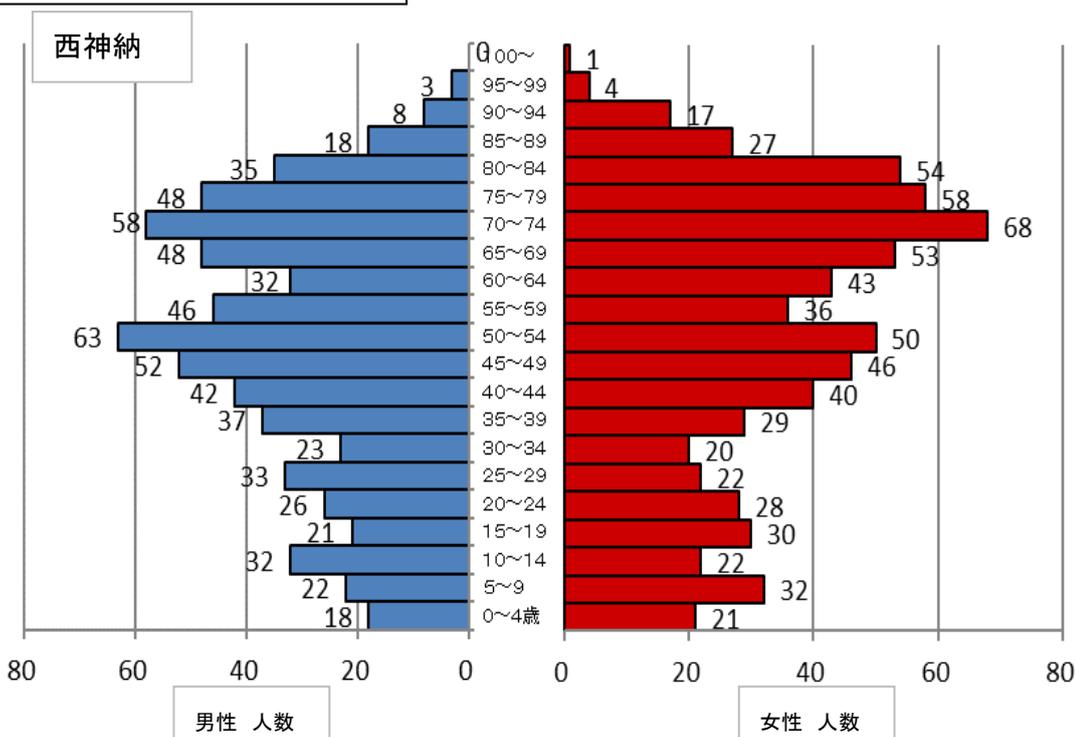
◇西神納地域：男女年齢別集計表（令和6年1月1日現在：市統計資料）

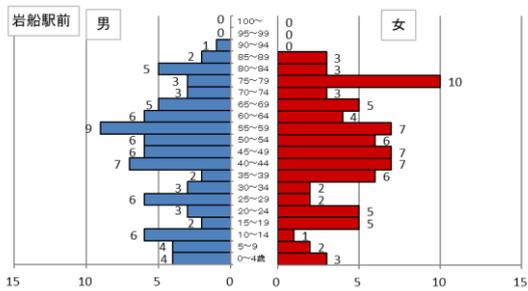
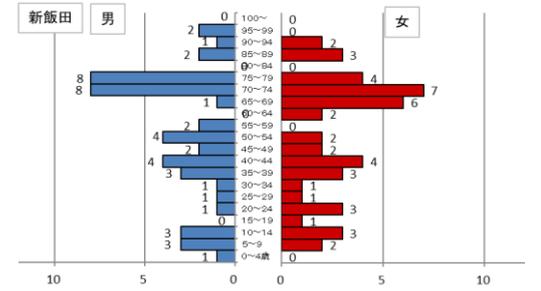
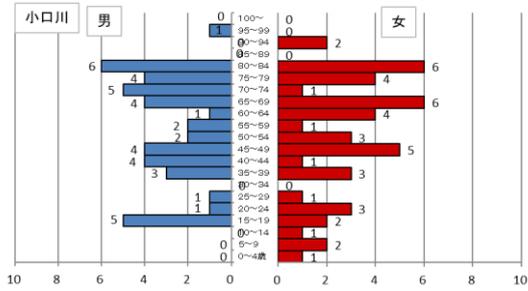
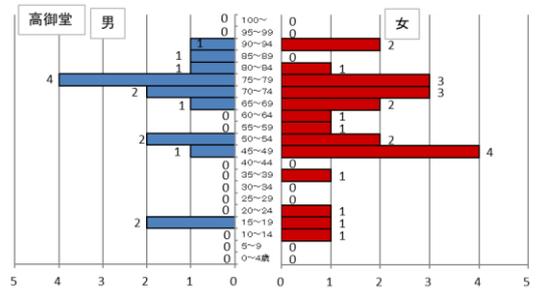
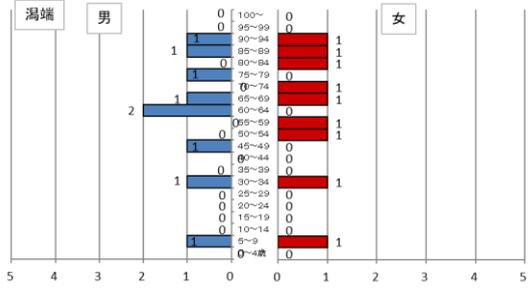
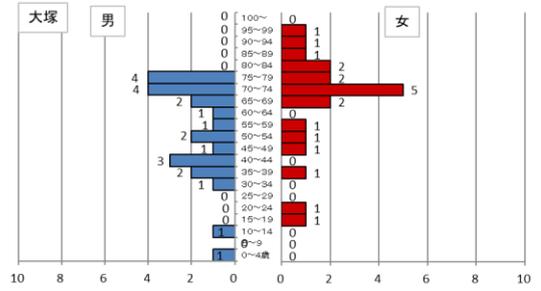
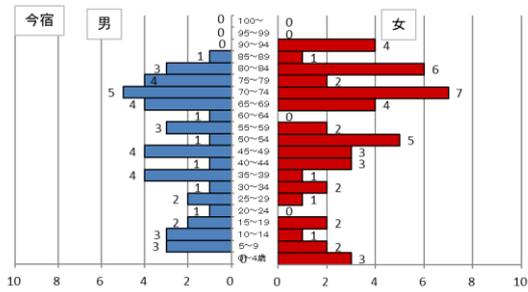
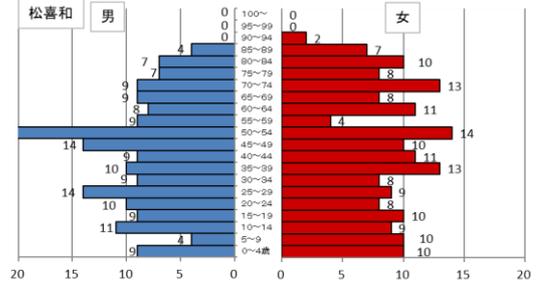
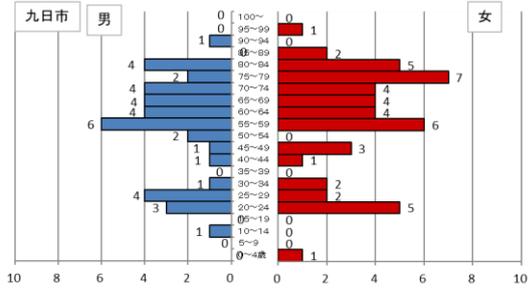
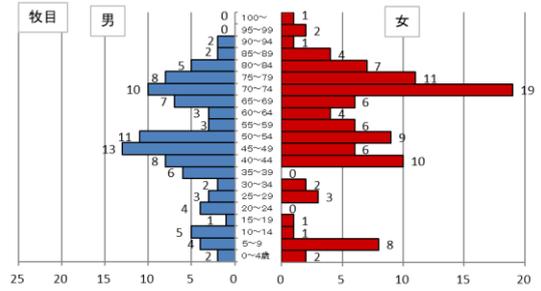
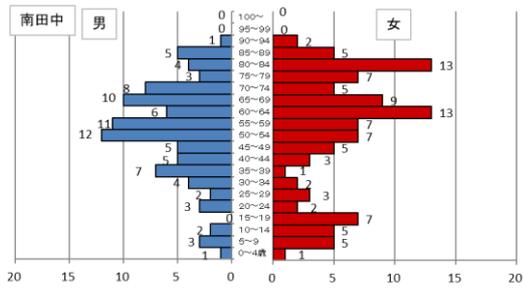
人 口	男女計	男	女
合計（施設入居者を除く）	1,366	665	701
15歳未満	147	72	75
15～64歳	719	375	344
65歳以上	500	218	282
うち75歳以上	273	112	161
うち85歳以上	78	29	49

割 合	男女計	男	女
15歳未満	10.76%	10.83%	10.70%
15～64歳	52.64%	56.39%	49.07%
65歳以上(高齢化率)	36.60%	32.78%	40.23%
うち75歳以上	19.99%	16.84%	22.97%
うち85歳以上	5.71%	4.36%	6.99%

年少人口(15歳未満)  
生産年齢人口(15歳～64歳)  
老年人口(65歳以上)

人口ピラミッド(令和6年1月1日現在)





## 将来像・基本方針

協議会では、これまで「つながりのある西神納」を目指して、集落や地域全体で様々な取り組みを行ってまいりました。第5次まちづくり計画においても、引き続き、集落事業や地域全体での事業を実施し、住民同士の交流を図りながら、つながりと支え合いを意識した取り組みを推進してまいります。

さらに、これからの地域づくりで大切なこととして、子どもや若者が、住み続けたい・戻ってきたいと思える環境が整っている地域にし、思いやりをもって声をかけ合い、お互いの支え合い・助け合いが日常的にある地域にする必要があります。

また、小・中学校の統合に伴い、他団体と共に学校と連携し、学校が地域に根差した存在となれるように支援してまいります。防災に関しても、自主防災組織や村上市防災士会と連携した活動を行うことで、高齢者が安心して暮らせる地域を目指してまいります。

そして、出身者や地域にゆかりのある方々を呼び込み、関係人口としてのつながりを創ることで、希薄化する関係性を今一度取り戻し、また、地域の魅力ある姿を発信することで、西神納地域の出身者が、再びこの地域に戻ってきたいと思ひ、当地域に住んでいる人たちが、これからも西神納地域に住み続けたいと思える地域づくりを目指します。

### ◆ 将来像（スローガン）

つながりと支え合いの西神納

### ◆ 基本方針（目標）

住民同士のつながりを深め、支え合いながら安心して暮らし続けられる地域を目指す

## 具体的な取組みの方向性等

基本方針である「住民同士がつながりを深め、支え合いながら安心して暮らし続けられる地域」の実現のため、取組みの方向性を次のとおり定める。

- 集落が主体となって取り組む事業に対して支援を行い、集落での課題解決や結束力の更なる強化を図る。
- 住民同士のつながりが深められるよう交流の機会を設け、特に世代間交流を意識した取り組みを行い、親睦と地域の活性化を図る。
- 人口減少・少子高齢化に伴う課題解決に向けた取組として、包括的に支える仕組みづくりを推進する。
- 学校や既存団体等と連携を図り事業の実施と、学校と地域がともに子どもたちを育てていく地域を目指す。
- 頻発化・激甚化する災害に備えるために、自主防災組織や村上市防災士会と連携し、防災意識の向上を図り、安心・安全な生活が出来る地域を作る。
- 出身者やゆかりのある方などに関わりをもち、地域外の人材を活用した関係人口創出の取り組みを行う。
- 小中学校再編に伴う、今後のまちづくり協議会の組織再編も含めた検討を行う。

## 事業計画年度（実施年度：令和6年度～令和8年度）

事業項目	実施年度		
	令和6年度	令和7年度	令和8年度
集落事業の支援 （結束力の強化、課題解決の支援）	▶		
地域事業の検討・実施	▶		
他まちづくり協議会や小・中学校との連携、他団体事業へ積極的な参加	▶		
地域の課題解決の取組	▶		
関係人口創出へ向けた取り組みの推進	▶		